

田染荘（たしぶのしょう）

目の前には農地として栄える地区が広がっています。ここは千年変わらぬ田園風景を今に残す地区であり、実際、現在の眺めと看板に表示された古い地図とを比べてみても、水田の形状さえ同じであることがわかります。

この地区は、かつては宇佐神宮の荘園であり、収穫後に神に捧げるコメを栽培するために使用されていました。谷のはるか西側の林の端に立つ鳥居門にご注目ください。雨引社の場所を示しています。かつてはこの神社から湧き出た水が、谷全体に灌漑されていたのです。この地点から、水田が緩やかに下るように広がる様子がお分かりになりますか？水田は 7 世紀の終わりに湧き水周辺から開発が始まり、徐々に広がっていき、千年後には谷を取り囲むようにして一帯に広がったと考えられています。

この地区は、ため池を連携させたネットワークや、クヌギ林を自然力として利用し汚染物を取り去りながら水や土地に涵養をもたらすようにするシステムといった、唯一無二の特徴がいくつも揃っていることを評価され、世界農業遺産に指定されました。これらの方法は今日でも使用され、持続可能なシステムによる農業を維持するのに役立っています。

絶景ポイントをお探しの方は、谷の東側にある短いながら急な山道を登ると、2 人の観音様の名前をつけた展望台までたどり着けます。東側が朝日観音、西側が夕日観音、というわけです。